



(題字は初代学長 山田守英氏)

## 第 125 号

平成18年 9月15日

編集 旭川医科大学  
発行 教務部学生支援課



上ホロカメトック岳 (上富良野町)

(写真撮影：学生支援課)

|                       |         |
|-----------------------|---------|
| 卒業生の動向 (医 学 科) .....  | 2       |
| 卒業生の動向 (看護学科) .....   | 3       |
| 2006医大祭が開催されました ..... | 4       |
| 医大祭を終えて .....         | 後平 泰信 5 |
| 第53回(平成18年度)          |         |

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 北海道地区大学体育大会について ..... | 6 |
| サマーコンサート開催される .....   | 7 |

### クラブ紹介

|             |         |
|-------------|---------|
| 硬式庭球部 ..... | 岡田 哲弘 8 |
|-------------|---------|

|                      |          |
|----------------------|----------|
| バドミントン部 .....        | 吉村 喬樹 8  |
| 男子バスケットボール部 .....    | 和泉 裕己 9  |
| 空 手 道 部 .....        | 松坂 法奈 9  |
| ブラスアンサンブル .....      | 島根 裕佳 10 |
| 室内合奏団 .....          | 森田 裕之 10 |
| 形態学研究会 .....         | 小笠原 卓 11 |
| 学生の交通事故・違反について ..... | 12       |
| 窓 外 .....            | 内藤 永 12  |

## 卒業生の動向(医学科)

平成18年3月24日（金）に本学を卒業した学生の進路状況は次のとおりです。

なお、個人情報保護法関連法律等の関係で氏名は掲載しておりません。

(学生支援課)

| 区 分 |             | 大学及び病院名等 | 平成17年度 |    |    |
|-----|-------------|----------|--------|----|----|
|     |             |          | 男      | 女  | 計  |
| 進 学 | 道 内         |          | 0      | 0  | 0  |
|     | 道内外その他      |          | 0      | 0  | 0  |
|     | 小 計         |          | 0      | 0  | 0  |
| 就 職 | 道 内         | 旭川医科大学病院 | 2      | 4  | 6  |
|     |             | 北海道大学病院  | 4      | 2  | 6  |
|     |             | 旭川厚生病院   | 2      | 2  | 4  |
|     |             | 市立旭川病院   | 3      | 2  | 5  |
|     |             | その他      | 23     | 9  | 32 |
|     | 計           |          | 34     | 19 | 53 |
|     | 道 外         | 大学関係病院   | 4      | 1  | 5  |
|     |             | 上記以外の病院等 | 27     | 8  | 35 |
|     | 計           |          | 31     | 9  | 40 |
|     | 小 計         |          | 65     | 28 | 93 |
|     | 未 定 ・ そ の 他 |          | 4      | 2  | 6  |
| 合 計 |             |          | 69     | 30 | 99 |

### 上記以外の病院名

道 内：札幌医科大学、旭川赤十字病院、札幌徳州会病院、札幌手稲溪仁会病院、勤医協中央病院、道北病院、名寄市立総合病院、江別市立病院、遠軽厚生病院、苫小牧市立病院、道立紋別病院、北見赤十字病院、滝川市立病院、倶知安厚生病院、市立函館病院、芦別市立病院

道 外：自治医科大学病院、京都大学医学部病院、信州大学医学部病院、九州大学医学部病院、西新井病院、虎ノ門病院、茅ヶ崎徳州会病院、小田原市立病院、国保旭中央病院、横須賀共済病院、埼玉協同病院、千葉労災病院、湘南鎌倉総合病院、国立精神神経センター国府台病院、大阪府済生会中津病院、名古屋掖済会病院、富山県立中央病院、小松市民病院、山形市立病院済生館、春日部秀和病院、上尾中央総合病院、新潟市民病院、淀川キリスト教病院、静岡市立病院、社会保険中央病院、熊本市立熊本市民病院、里見城中央病院、沖縄南部医療センター小児医療センター、沖縄協同病院

## 卒業生の動向(看護学科)

平成18年3月24日(金)に本学を卒業した学生の進路状況は次のとおりです。

なお、個人情報保護法関連法律等の関係で氏名は掲載しておりません。

(学生支援課)

| 区 分         |        | 大学及び病院名等  | 平成17年度 |    |    |
|-------------|--------|-----------|--------|----|----|
|             |        |           | 男      | 女  | 計  |
| 進 学         | 道 内    | 旭川医科大学大学院 | 0      | 1  | 1  |
|             | 道内外その他 |           | 0      | 0  | 0  |
|             | 小 計    |           | 0      | 1  | 1  |
| 就 職         | 道 内    | 旭川医科大学病院  | 2      | 12 | 14 |
|             |        | 北海道大学病院   | 0      | 7  | 7  |
|             |        | 旭川厚生病院    | 0      | 5  | 5  |
|             |        | 旭川赤十字病院   | 0      | 4  | 4  |
|             |        | その他       | 1      | 21 | 22 |
|             | 計      |           | 3      | 49 | 52 |
|             | 道 外    | 大学関係病院    | 1      | 4  | 5  |
|             |        | 上記以外の病院等  | 0      | 5  | 5  |
|             | 計      |           | 1      | 9  | 10 |
|             | 小 計    |           | 4      | 58 | 62 |
| 未 定 ・ そ の 他 |        |           | 0      | 3  | 3  |
| 合 計         |        |           | 4      | 62 | 66 |

### 上記以外の病院名

道 内：札幌医科大学、市立旭川病院、はらだ病院、北海道社会保険病院、幌南病院、市立札幌病院、N T T東日本札幌病院、手稲溪仁会病院、札幌厚生病院、北斗病院、慶愛病院、室蘭日鋼記念病院、函館中央病院、幌加内福祉センター、幕別町役場

道 外：千葉大学医学部附属病院、北里大学病院、東海大学医学部附属病院、国立がんセンター中央病院、聖路加国際病院、名古屋医療センター、湘南鎌倉総合病院

## 2006医大祭が開催されました

2006医大祭が「愛・旭医博～ミンナデココロヲヒトツニ～」をテーマとして6月9日、10日、11日の3日間の日程で開催されました。実行委員会が前年の12月に立ち上げられてから約半年の準備期間を経ての開催となりました。9日には朝から準備が開始され夕方にはNHKのローカル番組にて準備風景や模擬店メニューの紹介が中継されました。その日は、一般公開の準備と前夜祭という名の学生のための医大祭が夜遅くまで行われました。

翌10日は、朝9時より一般公開され体育館で行われたフリー・マーケットには沢山の出店者や掘り出し物を求めた来場者で大盛況でした。雨天のために急遽場所を看護学科棟へ移動したゲームコーナーには沢山の子どもたちが殺到し輪投げにより獲得したヌイグルミや模擬店の食券を手にはしゃぎしていました。学生ロビーでは室内合奏団のコンサートが開催されて沢山の聴衆がその演奏に聴き入っていました。看護学科棟大講義室において午前11時には「国境なき医師団と旅が私にくれたもの」と題して、国境なき医師団の医師である釧路中央病院の荒井義章先生が講演され、午後2時には野球評論家の大久保博元氏によるトークショーが開催されました。講義実習棟1階にて催された「医学健康ひろば」の健康チェックコーナーには老若男女沢山の来場者が日頃の健康管理の確認を楽しみながら行っていました。また、医大祭の夜の風物詩として午後7時45分頃よ

り恒例の花火が打ち上げられ、近隣から来場された方々がひと時の華麗な花火に見入っていました。

最終日である11日は、前日から引き続き模擬店が大盛況で沢山の来場者がイロイロな店の前で立ち止まりバザーのメニューを吟味しながら飲食する姿が見られました。学生ロビーではブラスアンサンブルのコンサートが開催され、これも前日に引き続き沢山の聴衆が聴き入るなか日頃の練習の成果を発揮していました。午前10時より第7講義室において内科学講座病態代謝内科学分野助教の伊藤博史先生により「Control myself ～糖尿病について～」と題した公開講座が行われました。また前日の雨天とちがい好天に恵まれたことによりゲームコーナーがテラスにて開催され、前日にも増して沢山の子どもたちがピンゴ大会に挑んでいました。午後2時から体育館において、お笑いライブ2006が開催され沢山の観客を笑いの渦に巻き込んでいた・・・かもしれません？（微妙かな？）

このように沢山の来場者が訪れて大盛況・大成功のうちに2006医大祭が終了しました。今年は実行委員等が街頭での広報活動を行って来場者の増加に努力したり、Tシャツのデザインやマスコットの募集をしたり、旭川保健所の要望によりエイズの無料検診の場を提供したりと新しい試みを行いました。来年も悔いの残らない医大祭が開催されることを期待しています。（おまけ・・・当日、翌日の後片付けもきれいに無事終了しました。）

### 医大祭スナップ



医大祭受付



フリーマーケット



模擬店



花火



輪投げ

## 2006医大祭を終えて



旭川医科大学学祭実行委員会

実行委員長 後 平 泰 信

医大祭2006が終わってから早2ヶ月が経過し、残務もほぼ終了しました。今回は当日までの流れや実際に経験して感じたことなどを振り返りたいと思います。

医大祭2006の活動全体を通して「大変だった」の一言に尽きます。今年は委員長やチーフを含めて実行委員未経験者が多く本格的に運営に関与するのは今年が初めてということで何をするにもほぼ手探りの状態から始まりました。学祭運営の要である広告料集めから当日の企画やタイムテーブルの決定など、各チーフに仕事が割り振られてはいますが、結局のところ全体会議を通して重要な事柄が決まるので実行委員会の活動は非常に多岐に渡っており、自分の係の仕事をこなしながら他の係との連携を図るなど並行して数種類の仕事をこなさなければなりません。この点が要領を得るまで最も負担となりました。

次に、今年度の医大祭での主な変更点や力を入れた点について触れたいと思います。今年度は学内だけの自己満足に終わってしまうのではなく、もっと旭医のことを地域住民の方々に知っていただくという思い、まず地域に開かれた医大祭にしようという方向性を打ち出しました。この考えを元に、毎年行っている健康ひろばやお笑いライブショーの充実、講演会とは別にトークショーを設けるなど改革を進めていきました。また保健所とのタイアップでHIV抗体検査を行うなど医大ならではの特色を活かした企画も組みました。一方、企画内容を増やすということはそれだけ必要になってくる委員の数も増えるということで当初は委員不足が懸念されていましたが、実際に募集をかけてみると予想を上回る委員数となり、全ての企画をうまく回す原動力となりました。

た。

また上記の企画の中で特に苦労したものを挙げますと、お笑いライブショーの出演者がパンフレットの前稿提出期限直前まで決まらず、このことが方々に影響を及ぼし、大きな悩みの種となっていました。しかし関係チーフの努力等が実り、結果的にはチケットも当初の予定をはるかに上回る売れ行きで満足のいく内容となりました。

実際に委員長（委員やヘルパーも同様ですが）をやってみて、自分達で学祭を創り上げることの楽しさを知ることができました。これだけの規模のイベントを運営するということは人生でそう何度も経験できることではありません。本番まで2ヶ月を切った5、6月は日常生活を送っていても頭のどこかで医大祭について考えているという、今考えてみると多少異常な状況でしたが、終わってみると大変だった代償として何事にも代えがたい充実感をえました。ですので後輩の皆さんには来年どんな役割でもよいので医大祭に関わることを強くお勧めします。きっと忘れられない思い出ができるでしょう。

そしてもう一つ忘れてはいけないこと、それは医大祭運営にあたり多くの方々に支えていただいたということです。一番身近なところでは委員の皆さんが、時には協力し、時には意見をぶつけ合いながら一丸となって医大祭の成功を目指して来ました。準備から当日に至るまで身を粉にして尽力していただき、本当に感謝しています。さらには、休日等返上で連日アドバイス等をいただきました学生支援課の皆様、開催に伴いご協力いただきました医大職員の皆様、参加いただいた学生や地域住民の皆様に感謝を申し上げ、結びの言葉といたします。



## 第53回(平成18年度)北海道地区大学体育大会について

去る、7月7日～9日、7月14日～17日の日程で帯広畜産大学を主管大学として第53回(平成18年度)北海道地区大学体育大会が開催されました。

本学では昨年に引き続き弓道競技を分担種目として担当し7月8日～9日の日程で美瑛町弓道場を会場として開催されました。

大会は、朝方からの霧雨も開会式の時点で上がり、青空の下絶好の競技日和となった中で、男子17大学、女子16大学の参加により熱戦が繰り広げられました。

男子弓道は北海道大学が42中で前年度に引き続き優勝を飾りました。続いて酪農学園大学が39中で準

優勝、前年度準優勝の帯広畜産大学が35中で第三位となりました。

女子弓道は熱戦の中、20中で酪農学園大学との同点決中(優勝決定戦のようなもの)を制した本学の女子チームが初優勝を飾りました。続いて決中で敗れた酪農学園大学が同20中で準優勝、前年度準優勝の北海道大学が19中で惜しくも第三位となりました。

本学女子チームは、大会の準備等で忙しい中、頑張って練習を重ねた結果、見事な優勝を勝ち取りました。(来年は、男子にも期待したいと思います。)

ちなみに、男子が60射、女子が36射の結果です。



## サマー・コンサート開催される

### 合唱部

7月15日(土)夜7時より合唱部によるサマー・コンサートが開催されました。この週は最高気温が29℃前後という暑い日が続いた週でサマー・コンサートと呼ぶにふさわしい気候の中での開催となりました。天候に恵まれたこともあり近隣からも多数の来場者が訪れて、日々の練習の成果の発表と患者様の憂いのためという目的を達成できたと思えるコンサートとなりました。



### ギター部

7月22日(土)夜7時よりギター部によるサマー・コンサートが開催されました。当日は夕方からあいにくの雨となり、来場者も始まる前はまばらな状態でしたが、演奏が始まるころには入院されている方々が多く来場されました。普段とは違い悪天候のため近隣からこられた方が少なかった分、入院患者様とのアットホームなコンサートとなりました。



## クラブ紹介

### 硬式庭球部

主将 岡田 哲弘

硬式庭球部は男子28名、女子34名の部員で活動している。今年は男女合わせて23名もの新入生が入部し、一気に部活の雰囲気が賑やかになった。近年は男子部員の入部が少なかったが、今年は大人数が入って嬉しいかぎりである。

練習の場は学校コートであるが、春には冬の間に荒れてしまったテニスコートを長い時間をかけて石拾い、ローラーがけなどの整備をすることから始まる。これは実は根気のいる作業であるが、今年も部員一同力を合わせコートを完成させた。そんなわけでコートが出来上がると、我が部は毎年6月に行われる学生テニス王座決定試合をはじめとする団体戦を目標とし、日々練習に励む。その他学生トーナメント・旭川の市民大会などの個人戦にも積極的に参加し、練習の成果を発揮する場としている。春、夏、秋は部活の練習時間のみではなく、土日などの空き時間にも自主練に励む部員でテニスコートはにぎわっている。そんなテニス好きな部員の姿を見てると頼もしく思う。

一時少し流行った「テニスの王子様」でも、「テニスは技術もさることながら、精神面によって大きく左右されるスポーツだ」という台詞がある。

私たちは練習によってテニスの技術の向上を目指しているわけだが、テニスの試合というのは不思議なもので技術だけで勝てるとは限らず、精神面によっても大きく勝敗が左右されてくるものである。そんなわけでテニスは試合を通して精神面も鍛えられるスポーツであり、そのために悔しい思いをすることも多々ありますが・・・それもテニスの魅力の一つである。

最後に、顧問である程塚先生をはじめ、多くのOB、OGの方々が支えてくださっていることによって今の硬式庭球部がなりたっていることを感謝しながら、今後も部活動に励んでいきたいと思う。



### バドミントン部

主将 吉村 喬樹

バドミントンと聞いて、駐車場でポンポンと羽根つきのようにしているイメージを持っている方も少なくないでしょう。しかし実際は、かなりの運動量がある激しいスポーツであり、羽根の瞬間速度は時速250km前後に達する事もある世界最速のスポーツです。またその一方で、男女混合ダブルスが存在するなど、強さを求めるだけでなく、純粋に楽しめる要素を数多く持ったスポーツです。

旭川医大バドミントン部は、この奥深い魅力を持つバドミントンを全員で「楽しむ」事を、1つの目標としています。そのため、常に男女が合同で練習を行っています。また、バドミントン初心者も大いに歓迎しており、実際に大学からバドミントンを始めた部員の数も、現在の部員約50名の内、半数以上を占めています。このように男・女、上級者・初心者が分け隔てなく練習を行う事で、お互いを刺激し合い、高め合っています。

スポーツ全般で言える事だと思いますが、「楽しむ」事はとても大事な事で、「楽しむ」事ができれば、結果も自ずとついて来ます。旭川医大バドミントン部の成績は、男子は2年連続で東医体の団体戦で準優勝、女子は2年連続で北医体の団

体戦で優勝したほか、個人戦でも素晴らしい成績を残した部員が数多くいます。その意味では、バドミントンで強くなるための環境は整っていると思います。

もちろん、バドミントンを楽しめる事だけが、当部の魅力というわけではありません。バドミントン部には、多くの部員が在籍している上、近隣の医療系専門学校の学生も部員として受け入れています。そのため、価値観等の異なる個性豊かな部員が多く、豊富な人間関係を築く事ができます。

バドミントン部の魅力を挙げればきりが無い程であり、それを支えて下さっている顧問の川村先生をはじめとして、OB・OGの先輩方に感謝しつつ、今後も旭川医大バドミントン部を盛り上げていこうと思います。





## クラブ紹介

### 男子バスケットボール部

主将 和泉 裕己

漫画「スラムダンク」と言えば、おそらくほとんどの男子が一度は読んだことがあるのではないだろうか。バスケ経験がある者にもない者にも、「バスケットボール」という競技の面白さを十分に伝えてくれた名作中の名作である。特に最後の湘北一山王戦は、感動のあまり漫画相手に涙すら流してしまった、なんて人も少なくないはず。

我が男子バスケットボール部は、「スラムダンク」を読んで、そんなバスケットボールという競技の魅力にとりつかれた者達の集団だと言える（おそらく）。大学に入ってまでバスケットボールを一生懸命がんばり、つらい練習にもかかわらず誰も途中で投げ出したりする者がいないのは、部員が皆バスケットボールという競技を好きだからということに他ならない。そんな部員たちの結束は強く、お互いがお互いを支え合い、高め合っているよき仲間たち、それが我が男子バスケットボール部だ。

バスケットボールというのは、簡単に言えば「リングの中にボールを入れる」競技である。これだけを聞けば一見簡単な競技だが、リングにボールを入れるまでのその過程には様々なドラマがある。まずはボールを自分たちが入れるべきゴールへと

運ばなければならないわけだが、当然その過程には邪魔してくる相手がいるわけだし、また逆に自分たちも同じように相手の邪魔をし、自分たちのゴールを死守しなければならない。「ゴール下は戦場だ。」という赤木主将のセリフ（スラムダンク参照）はあまりにも有名である。気持ちのこもったプレーは、上手い下手を問わず見ている者の胸に熱いものを感じさせる。それはまさにバスケットボールをやっていてよかったと感じる瞬間でもある。

最後に、バスケットボール部を支えてくださっている顧問の千葉教授をはじめ、多くのOB・OGの方々に感謝しつつ、今後も悔いのない活動が続けていきたいと思う。



### 空手道部

自分自身との闘い、だけど。

主将 松坂 法奈

「空手道部」と聞いて誰が我が部のような姿を想像できるだろう。総勢19名の部員中、なんと女子部員13名。マッチョな男子どころか、見た目には空手などやっていそうもない女子部員たちが我が部の大半を占め、その彼女たちが部活を盛り上げているのだ。

活動は週2回、希望者は近くの道場の稽古にも参加させていただいている。そのほか年2回昇級・昇段審査を受けたり、他大学と交流試合を行ったり、東医体をはじめとした各大会に出場したりしている。

空手は個人競技だ。極端な話、1人でも稽古はできる。強くなるためには、自分自身がどれだけの稽古を積み重ねて技術を高めるか、どれだけの精神力を養えるかが重要であるが、特に難しいのが精神力を高めることだと思う。己と向き合い己を制する、そんな自分自身との闘いは想像以上に過酷だ。1人では闘いきれないときが必ずある。だから、仲間が必要だ。ともに稽古を積んできた仲間たちと支えあうことが必要だ。団体競技とは一味違った連帯感がそこにはある。

ところで、先ほど「競技」という表現をしたが、それはある意味正しくない。空手はスポーツではない。武道だ。目指すのは「勝利」ではなく「強

さ」、そしてその「強さ」の正体は「揺るぎない心」であるとは私は考えている。目に見えないものを追求するのは難しくもあり、また大きな魅力でもある。これだから空手はやめられない。

・・・とはいっても、我が部はやたらと厳しく稽古をしているわけではない。部員一人一人がそれぞれのペースで空手と向き合える自由主義がウリでもある。この大学には珍しいことではないが、部活動における固定の指導者がいないため、その役割は上級生が担っている。それゆえの苦労もあるにはあるが、この部活で出会った仲間たちと稽古ができる時間はやはり最高に楽しい。

最後に、顧問の相澤先生をはじめ、OB・OGの方々のご協力に感謝しつつ、今後も稽古を続けていきたい。



## クラブ紹介

### ブラスアンサンブル 『音』を『楽』しむ♪

部長 島根 裕佳

こんにちは、ブラスアンサンブルです。いわゆる「吹奏楽部」と同じ編成で、管楽器をやっています。今年で結成26周年となりますが、結成当時は金管楽器（＝ブラス。キラキラしている金色の楽器です。）のみの小編成（＝アンサンブル）だったため、この名前が付いたと聞いています。現在は、病院ロビーや地域での演奏会を中心に活動を行い、患者様や地域の方々と一緒に音楽を楽しんでいます。

さて、ブラスには今、約60名の部員が在籍しています。小学校からずっと同じ楽器をやっている人、大学から音楽を始めた人、医大生、近所の専門学校の学生…いろんな人がいます。悩みとえば部室が狭いことと楽器不足ですが、それにも負けない明るい雰囲気がブラスにはあります。ブラスアンサンブルという部活の特徴は、どんなに人数が多くなっても、一人ひとりが決して軽んじられないところにあると思います。その理由は、一人ひとりが音を持ち寄り、ひとつの音楽を織り成していくという活動の特徴にあります。メンバーが、お互いを大事な仲間と認め合い、尊重する雰囲気があるのです。

ブラスの部員は、もちろん音楽が大好きな仲間たちですが、演奏会に来てくださったお客様の笑

顔と触れ合うことが何よりも好きな人々です。単に「演奏会」と書きましたが、ブラスは今のところ、賞がからむようなコンクール等には出ていません。それじゃ、結構ダラダラやってるの？という、そうでもありません。いつ、どこであれ、お客様に聴いていただける機会があるならば、そして楽しんでもらうためならば、相当必死に練習します。演出やMCも、頭をひねって考えます。演奏会、そして音楽はエンターテインメント。楽しんで、楽しませてなんぼ。ブラスにはそんな哲学が脈々と受け継がれてきているのです。

そんなブラスの演奏会、是非一度いらしてください。学内で開催するときは、学内や大学病院の掲示板にポスターを貼らせていただいています。



### 室内合奏団

団長 森田 裕之

室内合奏団は、旭川医大が創設されて以来続いてきた歴史のある部活です。現在、部員は約40名在籍しており、医大生のみならず専門学校生なども在籍しており他校との交流も盛んです。室内合奏と聞いて一体どんな楽器を使って演奏するのかという疑問を持たれるかもしれないのでこの場を借りて説明したいと思います。私たちが使う楽器は主に弦楽器で4種類あります。小さい楽器から順にヴァイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバスです。室内合奏団と言うより、弦楽合奏団といったほうが分かりやすいですね。ヴァイオリン、ビオラが高音域を担当し、チェロ、コントラバスが低音域を担当します。この他にも、曲によってはトライアングルやピアノなども登場します。私たちの主な活動内容を紹介しますと、7月に行われるブラスアンサンブルと共同して行われる定期演奏会がメインイベントです。本番当日のおよそ9ヶ月前からこの演奏会の曲決め、会場確保など様々な準備（もちろん練習も！）があり、スケジュール的にも大変厳しいですが演奏会が無事に成功すると達成感と充実感でいっぱいになります。この

定期演奏会の他にも医大祭での演奏、市中病院での演奏、医大病院ロビーでのクリスマスコンサート等年間を通じて演奏会が目白押しとなっております。演奏会を通じて感じることは、聴きにきてくださる患者様の表情や拍手がとても暖かく、逆に私たち団員の方が患者様に癒されているということ です。

室内合奏団は、皆練習熱心で部活の時間以外にも練習するので顔を合わせる機会が多く結果として深い人間関係が築ける素晴らしい部です。これからも、演奏を通じて患者様に癒しを提供できるように、またより良い人間関係を築けるように日々練習に励んでいこうと思います。



## クラブ紹介

### 形態学研究会

微細構造の追及

会長 小笠原 卓

「形のあるところに何か興味深いものが隠れている。」

光学顕微鏡で垣間見る組織標本の微細構造や電子顕微鏡写真で観察できる超微細構造は、見るものに内なる感動を呼び起こすのに十分である。基礎医学の組織学や細胞生物学を学んだ本学2年生以上の諸君ならば、教科書で覗いた、あるいは実習でふれた細胞・組織の構築の妙味に驚かされた経験をお持ちではなからうか？

科学の進歩により、我々は色々な視点で生命のあり方を自分の眼で目撃できる。普段、自分の網膜を用い、何ら道具を用いることも無く普通に見ることができるのは、呼吸をし食物を摂り、時に活発に動く動物や植物のありのままの姿である。

しかし、真に興味深いのは、その奥に潜む、顕微鏡を用いて観察できるレベルの美しい組織構築である。人間が泣いたり笑ったり動的な活動をしているその刹那に、顕微鏡の光が照らされなけれ

ば見ることのできない闇の中の生命の躍動である。およそ60兆にもものぼる膨大な数の細胞が、ある蓋然性をもって層構造を成したり、色々な物質をやりとりしてお互いに連携をとりながら、個々の細胞に与えられた役割を粛々と営んでいる。そんな生命の隠れたつつまじやかなあり方を学ぶ時、僕はある種宗教的ともいえる敬虔さを感じずにはいられない。

形態学研究会では、現行のカリキュラムで行われる1年生後期の組織実習で、後輩の指導にあたることもある。その実習の時に、1年生諸君に意識してもらいたいと思うのは、組織実習にかかる実習時間の長さだけではなく、自分たちの持つ組織や細胞の見事なまでの構築とその裏に潜む細胞生態である。将来、臨床で病気の原因を学ぶときにも、細胞の構築に基づく考え方は重要である。

また、何か組織学をやる上で興味を持った人や、わからないことがあったときは気軽に第2解剖教室を訪れてください。やる気があれば、相談次第で研究もやらせてもらえます。

## 医大祭スナッフ



ヒンゴ



健康チェック



模擬店



## 学生の交通事故・違反について

ご存知のとおり本学には「学生の交通事故・違反の取扱に関する申合せ」がありますが、最近、本学の学生による違反が多発しているとの報告が管轄の警察署よりなされました。

事故・違反等に心当たりのある学生は速やかに学生支援課課外活動係へ申し出て所定の手続きを行って下さい。

なお、参考までに「学生の交通事故・違反の取扱に関する申合せ」を掲載します。

### 学生の交通事故・違反の取扱に関する申合せ

平成16年4月1日

(対象)

第1 本学学生が交通事故・違反を起こし、罰金以上の刑に処せられた場合、「学生の本分に反する行為をした者」として処分を行う。その際、飲酒運転、無免許運転等の車に、同乗した者も処分の対象とする。

(処分基準等)

第2 処分に当たっては、交通事故・違反の原因、状況、結果、影響等を考慮の上、総合的に審査し、以下の基準を勘案する。

1 飲酒運転、無免許運転、著しい速度違反によるもの及び悪質なものについては、次の基準により処分を行う。

(1) 人を死亡又は負傷させた場合は、停学以上とする。

(2) 物損事故を起こした場合は、訓告以上とする。

(3) 同乗者は、嚴重注意又は訓告とする。

2 上記1の(1)、(2)以外で、罰金以上の刑に処せられた場合は、嚴重注意又は訓告以上とする。

3 第1項又は第2項に再度該当した場合は、前回の処分より厳しい処分とする。

4 該当者が入院治療中の場合の処分は、状況を勘案して行うものとする。

(届出等の義務)

第3 交通事故・違反を起こした学生には、次のとおり届出・報告書を学生支援課に提出させる。

1 交通事故・違反の発生から14日以内に、別紙1「交通事故・違反に関する届出書」を提出させる。

なお、入院治療等で期限内に別紙1を提出できない場合は、その旨口頭による申し出(代理人でも可)により提出を猶予する。

2 罰金以上の刑の確定から14日以内に、別紙2「事故等の報告書」に当該交通事故・違反の詳細及び本人の弁明事項等を記載し、事実を証明する書類(起訴状、判決文、罰金にかかる領収書等)を添付し、提出させる。

3 上記1及び2の書類の提出等について、期限後に提出した場合は、その行為を含めて処分の対象とする。

附 則

この申合せは、平成16年4月1日から実施する。



窓 外

英 語

内 藤

永

### 「窓外における英語の取り組み」

研究室から窓の外を眺めると、そこには雄大な大雪山系が広がっています。季節ごとに、時間ごとに、その装いはまさに刻々と変化しますが、その彩りの美しさは変わることがありません。そんな風景を眺めながらはや11年が過ぎようとしています。仕事の面では色々な変化がありました。現在は学外と連携する3つのプロジェクトに取り組んでいます。

1つ目の取り組みとして、今年の7月に旭川市国際交流委員会、日本英語医療通訳協会との共催で「医療英語セミナー」を開催しました。市民、学生、医療従事者、英語教員が一堂に会して、医療通訳や医療翻訳をテーマに講演、ワークショップを行いました。参加者された方々から「是非、継続して欲しい」との声を頂戴し、「第2回」を検討中です。

2つ目の取り組みは、実業界における英語使用の

実態調査です。道内にある単科系の大学教員と研究グループ『ESP北海道』を立ち上げ、北海道内の仕事現場における英語のニーズ調査を昨年度から実施中です(ESPとはEnglish for Specific Purposesの略で、社会の特定のシーンで使われる英語のことです)。北海道開発協会、JETRO北海道、道内各地の商工会議所の協力の下、聞き取り調査をしています。身近なところで進むボーダーレス化に驚いてばかりです。

3つ目の取り組みは、WiredMDというアメリカにある患者向けビデオ教材会社との共同プロジェクトです。患者さんに病気の概要、治療方法などの理解を深めていただく目的で作成されたビデオが、医学英語教育に活用できるかを調査します。この春に契約が成立し、夏休み明けより、学内のパソコンから500のビデオ映像をいつでも見ることができるようになりました(ご利用方法をご案内いたしますので、調査へのご協力をよろしくお願い致します)。

窓外での仕事が増えたのは、学内での強力な支援体制があつてのことです。英語科内のスタッフはもちろんのこと、多くの先生方、事務の方々に日々実質的なサポートをいただいています。心より感謝申し上げます。3つのプロジェクトはいずれも地元密着型ですが、日本では例のない取り組みばかりです。旭山動物園に続けとばかりにがんばる毎日です。